

平成 29 年度第 1 回富津市総合教育会議 会議録

1 会議の名称	富津市総合教育会議
2 開催日時	平成 29 年 6 月 29 日 (木) 午後 2 時 30 分から午後 3 時 7 分
3 開催場所	富津市役所 本庁舎 5 階 502 会議室
4 審議等事項	○付議議案 (1) 富津市小・中学校再配置計画の策定について
5 出席者名	高橋恭市市長、岡根教育長、宮田教育長職務代理者、榎本委員、小坂委員、坂部委員、能城教育部長、高梨教育部参事兼学校教育課長、鶴岡教育総務課長、河野学校教育課主幹、鈴木学校再配置推進室長、竹谷教育センター所長、鳩飼教育センター主幹、岩名生涯学習課長、渡邊公民館長、笠原教育総務課施設係長、高濱教育総務課主事
6 公開又は非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部非公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 非公開の理由	(理由)
8 傍聴人数	1 人 (定員 12 人)
9 所管課	教育部教育総務課庶務係 電話 0439-80-1340
10 会議録(発言の内容)	別紙のとおり

発 言 者	発 言 内 容
事務局 (能城部長)	<p>本日の会議に先立ちまして、会議の写真撮影の申出があり、これを許可いたしましたので、ご報告いたします。それでは、ただいまから、平成 29 年度第 1 回富津市総合教育会議を開催いたします。本日の進行は、教育部長の能城が務めさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。それでは、開会に当たりまして、高橋市長からご挨拶を申し上げます。</p>
高橋市長	<p>こんにちは。本日は大変お忙しい中、平成 29 年度第 1 回富津市総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、教育委員の皆様には、日頃から富津市の学校教育、社会教育両面の充実のために日々ご尽力賜っていただいておりますことを併せて厚く御礼申し上げます。さて、早速ですが、本日の協議事項であります『富津市小・中学校再配置計画』につきましては、私自身も市長として、『子どもたちの将来を希望あふれるものとするため、一定規模の集団の中で活動することを通して、子供たちに生きる力を育む教育環境を整備したい。』という教育委員会の思いを強く受け止め、また、私も同様の考えを持っておりましたので、是非そのような方向で進めていただきたいということで、指示を出させていただいてまいりました。私も地域の懇談会に 2 度ではございますが参加させていただき、地域の核であります学校がなくなることについて、市民の皆様の不安など様々なご意見をいただく中で、その具体的な対策等について回答させていただきました。本日は、『富津市小・中学校再配置計画（最終案）』について、教育委員会から協議の申出があり、総合教育会議を招集させていただきました。小・中学校の再配置につきましては、教育委員会と市長である私が意志の疎通を図り、共通認識の基、連携して推進していかなければならないと考えておりますので、今後ともご協力をいただきますようお願い申し上げます、簡単ではございますが会議冒頭の挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。</p>
事務局 (能城部長)	<p>ありがとうございました。次に会議録署名人の指名でございますが、会議運営要領第 4 条第 3 項の規定により、市長と会議において指名した委員にお願いすることとなっておりますので、市長は、会議録署名人の指名をお</p>

	<p>願いいたします。</p>
高橋市長	<p>はい。本日の会議録署名人は、岡根教育長に願いいたします。</p>
岡根教育長	<p>はい。承知いたしました。</p>
事務局 (能城部長)	<p>ありがとうございます。本日の会議録署名人につきましては、市長と教育長に願いいたします。また、当会議の議長につきましては、会議運営要領第2条第3項の規定により市長に願いいたします。</p>
高橋市長	<p>それでは、会議運営要領の規定により、私が議長を務めさせていただきますので、よろしく願いいたします。早速ですが、議事に入らせていただきます。富津市小・中学校再配置計画の策定について、教育委員会からご説明いただいた後、協議を行いたいと思います。それでは、岡根教育長より本議題について説明をお願いいたします。</p>
岡根教育長	<p>はい。それでは、ご説明させていただきます。教育委員会では、児童・生徒の教育環境の改善を図ることにより、多くの仲間と意見交換し、切磋琢磨する機会を増やすとともに、幅広い人間関係が学べる場を提供するため『富津市小・中学校再配置計画（案）』を策定いたしました。市長からは、市民の皆様の意向に十分配慮しながら進めていってほしいとの指示を受け、保護者・地域住民を対象に説明会を36回実施いたしました。説明会には、延べ859人の方々が参加され、活発な意見交換を行ってまいりました。保護者や地域住民説明会を重ね、概ね理解が得られた学校につきましては、平成32年4月に統合を進めていきたいと考え、この度、『富津市小・中学校再配置計画（最終案）』を策定いたしました。計画の詳細につきましては、鈴木室長よりご説明申し上げます。</p>
鈴木室長	<p>それでは、私から『富津市小・中学校再配置計画（最終案）』について説明させていただきます。資料『富津市小・中学校再配置計画（最終案）』をご覧ください。本計画では、後に説明させていただく主に2点の変更点を除き、多くの内容について、当初の『学校再配置計画（案）』に準じたものと</p>

	<p>なっておりますが、細かな部分で誤解しやすい表現を改めたり、よりわかりやすくなることを心がけ、加除訂正を行っております。主な変更点について、説明させていただきます。資料の5ページをご覧ください。天羽地区の小学校再配置計画において、金谷地区については、保護者へのアンケートの結果、賛成・反対がおおよそ半々であり、他地区と比べてもスクールバスでの通学に対する、特に低学年児童への不安が大きく、住民の理解を十分に得たとは言えない状況であることから、湊小学校、天神山小学校、竹岡小学校の3校による再配置計画とし、金谷小学校については今後も継続して保護者及び地区住民と協議を行っていくという判断に至りました。また、環小学校からは、説明会の中で、天羽4小学校の再配置に加えてほしい旨の要望が出され、アンケートの結果、全体の7割の保護者から『賛成する』との意見を受けました。しかし、当初の計画になかったものであり、教育委員会で学校再配置の指標とした『複式学級』に当たらないこと、地域の住民との協議も必要であることなどから、今後も慎重に検討を行っていくこととしました。また、今後も児童生徒数が減少していく可能性があることから、佐貫小学校及び天羽中学校について、本計画実施以降の学校再配置の見通しについての記述を掲載しております。以上、簡単ではございますが、説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。</p>
高橋市長	<p>ありがとうございました。計画（案）の策定については、ことあるごとに教育長から報告や相談をいただき、私も十分承知しております。委員の皆様から、何かご質問・ご意見等があればお願いします。はい。宮田委員。</p>
宮田委員	<p>はい。市長も先ほどご挨拶の中で少し触れておりましたけれども、市民の皆様につきましては、再配置に対して様々な面から見ての考えがあり、いずれの意見にも納得できるものがございます。しかしながら、どちらかに決めなければならないというところで、私個人としましては、子供たちの将来を考えたときに、少しでも多くのクラスメイト、先輩、後輩とふれあうことが大きなメリットになるのではと思います、自分なりの考えをまとめているのですが、市長の再配置に対しての考えや思いをお聞かせください。</p>
高橋市長	<p>はい。私自身、以前に副市長として、天神山小学校の複式学級の授業を市</p>

議会議員の方々とご一緒させていただいて見学した経験がございます。その中では、先生方がアイデアを持って授業を行い、素晴らしい教育をしていただいているなというようにも感じましたし、また、私も親の立場として、色々な仲間や知り合いの中から、教育に対してはそれぞれが色々な考えがあるのだなというところを感じております。しかしながら、私なりに色々な意見を聞く中で、個人的には、やはり子供たちには色々な経験というものではないよりさせた方が良くはないかというようなことを強く感じてきました。そして、教育委員会から提案いただいている考え方に対しましても、これから大人になる中で決して小さい世界だけで終わるということはあるまいと思っておりますので、やはり小さい時から切磋琢磨できるような環境というのは、つくっていかねばいけない、それがやはり私たちの責任だというように考えているところでございます。砕けた話をしてしまいますと、私の子供の頃の思い出の中で、例えばですが、修学旅行のバスの中が楽しかったとか、運動会で色々な仲間がいて、徒競走のときに1組目はみんなが速かったけれども次の組はみんなが転んでしまった等、皆様も学校での色々な思い出があると思うのですが、やはり子どもの成長には様々な経験が必要で、色々な思い出はないよりあった方が非常にプラスになるのではないかというように感じております。ですから、小規模の学校がいけないということではなく、小規模の学校が優れた部分があるのだとすれば、規模が大きくなった際には地域の方や学校の先生方のお力を借りながら、そのいい点を参考にしながら進めていくことは可能であると考えます。ですけれども、小さな学校が大きな学校と同じ事をやるというのは非常に難しいと考えておりますので、ぜひ適正規模の学校にして子供たちに色々な経験をさせたい、してもらいたいというのが私の考えでございます。

宮田委員

はい。ありがとうございました。

高橋市長

他にご質問・ご意見等はございますか。はい。坂部委員。

坂部委員

はい。ただ今、市長からのお考えを聞かせていただきましたが、市長の出身校でもあります金谷小学校につきまして、アンケート結果では保護者や

高橋市長	<p>地域の方からなかなか再配置に対する理解が得られていないということでしたが、その点につきましてはどのように考えていらっしゃいますか。</p> <p>はい。金谷地区につきましては、私たちが提示している計画（案）に関しましては通学距離からすると最も遠いという事実もあり、また、委員の皆様もご存じのとおり、若い方達が他地区と比べて市外から移り住んでいただいていることによって、将来への希望や可能性が住民の方の中にもあるのだろうというように感じております。しかしながら、私の考えとしましては、可能性を探りながら進めていくよりも、今日の問題があるのであれば、特に子供たちの問題であるのならば、決して5年・10年と時間をかけることが良いことだとは思っておりません。ですから、教育長から今回の再配置に関して色々な意見を求められたときに、可能な限り早いタイミングで進めてもらいたいということを私からは伝えたいつもりでおります。そのような中で、金谷地区の状況・雰囲気の中で、私が生まれ育ったときの状況や私が耳にしている言葉ばかりではないなと改めて感じておりますけれども、この計画（案）にもありましたように、決して私は金谷地区の平成32年の統合を諦めているわけではないと思っております。ですので、これからも状況をしっかりと伝えながら、平成32年の統合に向けて理解が深まるように努力をしていっていただきたいなというように感じております。</p>
坂部委員	<p>ありがとうございました。</p>
高橋市長	<p>他に何かご質問・ご意見はございますか。はい。宮田委員。</p>
宮田委員	<p>はい。再配置が行われた場合の跡地利用についてですが、現在「富津市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に取り組んでおられますが、閉校した学校の跡地利用、また直接関係はないかもしれませんが、最近増えてきたといわれる空き家対策などを含め、人口増加のための具体的な考え、計画がございましたらお聞きしたいと思います。</p>
高橋市長	<p>はい。空き家に関しましては、外から見て空き家だと感じているものでも、</p>

所有者の方が『空き家』だと認識をしているかどうかというところが最大であり、最初の課題であると思います。『私は、住んではいけないけれども利用はしている。』ということも大いにあり得ることだと思っておりますが、そのような意味では、行政として、まず使う予定のない空き家であれば次にそちらを有効活用していただける方に情報提供をして使っていただくということが非常に大切だと思っております。そして、使っていただく方がいらっしゃれば、市外から引っ越してきていただくですとか、また、市内在住で市外へ引っ越しを考えていた方に利用していただき市内に残ってもらうというのは、本当に有り難いと思っております。私としましては、新しい住宅地に住んでいただくのも非常に有り難いことでございますけれども、各委員の皆様もご存じのとおり、市内の色々なところでコミュニティが崩壊寸前の少子高齢化が進んでしまっている地区があると思っております。そのようなところにスペースがあるのであれば、是非ひとりでも多く若い方々が入っていただくことによって地域のコミュニティが守られる可能性も出てきますので、私は、そのような意味でも今後の空き家活用というのは行政として真剣に取り組んでいかなければならない問題だと思っております。次に、学校の閉校後の跡地利用についてでございますが、もし私供が提示させていただいているこの計画（案）が、今後計画どおりに進むとすると、小学校が2校、中学校が2校、併せて4校が一気に跡地として空くこととなります。同じタイミングで新たな利用方法が決められるかということ、正直それは難しいのではないかと私は正直感じております。そのような意味では、地域の特性をよく理解して、住民の皆様のご意見をいただきながら、『このようなスペースがあります。』ということを全国に広く知らしめた中で、その地域に最も合った利用方法を考えていくべきであると考えております。耐震をすでに済ませている学校が全てそのような状況でございますので、できれば利用していく方向で考えていけたらいいのではと思っております。その中で、まず最初に行政として、市民の皆様のサービスで他市に比べて劣っている部分に関して、そのスペースを利用して行うことができる可能性があれば検討もしたいと思っておりますし、その次には、地域の皆様のどのようなニーズがあるのか、地域の皆さんが担っていただけるような方法があるのかということを考えるべきだと思っております。

宮田委員	ありがとうございました。
高橋市長	その他にご質問・ご意見等はございますか。はい。小坂委員。
小坂委員	はい。環小学校から『統合に加えてほしい。』という意見があったということについては、教育長はどのようにお考えでしょうか。
岡根教育長	はい。環小学校の統合については、基本的にはこの計画の中にないものでございました。私どもが、天羽東中学校と天羽中学校の再配置、湊小学校と天神山小学校、竹岡小学校、金谷小学校の再配置の話をした際に、『どのみち中学校にあがったときに一緒になるのであれば、早い時期から子供たちが交流していかないと、環小学校の児童がどんな思いで中学入学を迎えるかということに対して不安がある。』というのが保護者の方のご意見で多くございました。そして、今回の計画（案）に対して環小学校ではこのような意見がございましたということは、もちろん市長にもお話してありますけれども、アンケートを実施したところ、環小学校の保護者の意向の主なものとしては7割程度が統合を希望するという意見が強いという状況でございました。しかしながら、峰上地区に学校を残したいという意見の方もいらっしゃいますし、地域住民の方に環小学校の再配置のお話はしておりませんので、今後につきましては、子供たちの心理状況の確認や地域住民への説明会を通しながら、ご意見を伺って教育委員会として結論を出し、計画（案）に入れるか入れないかを協議していきたいと考えております。
小坂委員	ありがとうございました。
高橋市長	他にご質問・ご意見等はございますか。はい。榎本委員。
榎本委員	はい。私は質問ではないのですが、先ほど市長もおっしゃったとおり、適正規模の学校にしていくということに対しましては、私は大賛成でございます。学校というのは、勉強をする場所でもありますが、社会に出て困らないルールを学んだり、また、より多くの思い出を作る場所でもあると思いますので、やはり大勢の仲間を得ることがとても大事なことではない

	<p>かと考えております。そして、このような問題というのはこれから少子高齢化がどんどん進んでいくと考えられる中で、将来に先送りにすることなく、現状を把握して、できればスピード感をもって進めていければ良いのではないかと私は考えております。</p>
<p>高橋市長</p>	<p>ありがとうございました。他にご質問・ご意見等はございますか。はい。坂部委員。</p>
<p>坂部委員</p>	<p>はい。この計画につきまして、現段階においては『最終案』ということでもよろしいでしょうか。</p>
<p>岡根教育長</p>	<p>はい。本日の議題である学校再配置というのは大変重要な問題でございますので、この会議を開催することにより、教育委員会と市長との意思疎通、共通理解を図ろうというものでございます。この後に、教育委員会として計画として公表をするものを論議をして決定をしていきたいというところでございますので、今の段階ではまだ最終案ということになっておりますが、この案を取ったものを定例教育委員会議で決定して公表していきたいと、そのように考えております。</p>
<p>坂部委員</p>	<p>昨年11月に計画(案)が策定されまして、今年1月から教育部長をはじめ、各地域への保護者説明会や市民への説明会を36回行ったということで、教育委員会の皆様は大変な思いだったことと思います。そのような中で、アンケートを実施し、その中には、『もっと早くやってほしかった。』というような意見もございましたが、『あまりにも急なのでは。』という意見等もございました。確かに早くやらなければいけないと思いますし、私も再配置について反対というわけではないのですが、計画を進める前にもう少し慎重に市民の方や保護者の方との話し合いが必要なのではと私は感じているのですが、本当に今回で決定しなければならないということなのでしょうか。</p>
<p>高橋市長</p>	<p>はい。先ほど宮田委員の質問にもお答えしましたが、現在の小規模学校に対しまして、色々な意見があるとは思いますが、私としては、もっ</p>

と良い環境がつかれるだろうとっております。そして、それが統合を通して実現することができるだろうと感じております。その中で、今課題があるのであれば、しつこいようですが子供たちの問題なので、3年を無駄に5年・10年にするよりは、やはりどこかで誰かが決断を下さなければいけないのではないかと感じております。そして、残念ながら100人が100人賛成だと言っていたのは非常に困難だと思っておりますので、確かに急ぎすぎだという批判があるのも存じ上げてはおりますけれども、そのような状況の中で、教育委員会で36回にわたって説明会を行っていただきました。私は時間ではなくて回数でそれが補われていると思っておりますので、是非ご理解をいただければ、この計画を当初のスケジュールどおり進めていただきたいと思っております。

坂部委員

私も平成32年度スタートというのは賛成なのですが、そこに決定するには今回の時期でなければいけないということであるとすれば、仕方のないことなのでしょうね。しかしながら、もう少し保護者や地域の方への説明会等を行って、もう少し納得していただいた状況になってから進めていくことはできないのかとも思いました。例えば、この後に個別再配置計画の中で、各地域での説明会を行う予定になっていると思いますが、その中で色々な案が出てきた場合には、多少の変更というのは可能なのでしょうか。

岡根教育長

はい。基本的に、私どもがこの計画を策定する原点というのは、やはり教育環境を良くすることについてのご理解でございます。少し言葉を選ばなければならぬかもしれませんが、極めて子供たちの数が少なくなってきている学級が見られて、そこをまず改善したいということについてご理解をいただきたいというところでございます。そのための方法手段や様々な付帯事項について、保護者の方からも『それがわからなければ賛成できない。』というような声も聞かれました。ですけれども、実際に私たちが考えているのは、より良い環境をつくることについてまずご理解くださいということで、後の条件整備につきましては、みんなで知恵を絞れば必ず解決できるはずだと、そのような考え方をいたしました。ですので、今回提案されている計画（案）については、概ねその点についてはご理解いただいているという地域に関しては進めていきたいと思いますという計画でござ

います。ですから、まずこのような環境づくりについて、『再配置を行うことについては賛成するが、道幅を広げてほしい。』等のご意見もいくつかございました。しかしながら、やはり『環境をつくることについては教育委員会の意見もよくわかる。ただ、まだ不安がある。』という意見の多い地域については継続審議を行うということで、このような最終的な計画（案）となっております。大事なことは、子供たちのためにより良い環境をつくることについて、まず皆様の理解を得たいということであり、それ以外につきましてもは知恵を絞ればなんとか越えられることだと考えております。先ほどの坂部委員から、個別計画の中で多少ずれ込むこともあるのかという質問がございましたが、大きな問題が出てくれば別ですけれども、基本的にはこの環境づくりに対する理解はある程度進んでいるのだろうなと思っております。また、保護者の方のご意見でございますから、『自分の子供が在学しているときにはやめてください。』という意見ももちろんございまして、そのお気持ちもよくわかるのですが、そうするといつまで経ってもできなくなってしまいますので、坂部委員のおっしゃったようにもう1年遅らせて平成33年4月でよいのではという意見もありますでしょうが、それはいつまで経っても同じことなので、もし保護者の方等との合意形成ができれば、今の子供たちのためにも早くより良い環境づくりを是非行っていきたいと思っております。

高橋市長

ありがとうございました。他にご質問・ご意見等はございますか。無いようですので、私から何点か確認をさせていただきたいと思っております。まず、1点目ですが、金谷小学校、佐貫小学校、環小学校の今後の計画につきましての教育委員会としての考えをお聞かせいただきたいので、お願いいたします。次に、2点目ですが、個別再配置計画の策定のスケジュールについての説明をお願いいたします。

岡根教育長

はい。まず1点目の金谷小学校、佐貫小学校、環小学校の今後の計画についてでございますが、資料『富津市小・中学校再配置計画（最終案）』の5ページ、『4 富津市小・中学校再配置計画（概要）について』に記載しておりますが、金谷小学校の保護者の皆様からは、『どうしても小規模の学校で運営していつてもらいたい。』という意向がまだ多くございました。『教

育委員会の考え方もわかるが、まだ親としては不安が残る。』ということで、スクールバスでの通学をはじめ、子供を何時に起こしたらいいのかというところまで様々なご意見・ご質問等があり、やはりなかなか変化に対する対応について、概ねの保護者の方にご理解をいただけるところまではまだ進んでいないように感じております。そこで、金谷小学校については、今回の計画（案）の中でまだ少し話し合いを行い、今後において、概ねの保護者の方のご理解が得られた状況になったときには、即座に進めていきたいと思っておりますけれども、今回の計画（案）については、天神山小学校、竹岡小学校と湊小学校の再配置という形を取り、継続審議ということになっております。これにつきましても、私どもとすれば、小集団で学習させるよりも多くの仲間と集団で学ぶことの楽しさや意義を、子供たち自身が感じることができれば、ずいぶん変わってくるものだろうと、そのように考えております。もちろん現状でも金谷小学校では素晴らしい教育をされていて、子供たちも充実していると思われませんが、そのような中でも、『うちの子は、野球やサッカーの集団スポーツを知らない。』というようなことをおっしゃっている保護者の方もいらっしゃるので、できれば集える学校の中でそのような様々な体験ができればよいのではということを経々説明しながら、ご理解を得ていきたいと考えております。佐貫小学校につきましては、平成35年には4つの学年が複式学級を開設する可能性が出てきておまして、保護者の方等からは、『そのようなことがわかっているのであれば、早くやるべきではないか。』という意見もごございます。しかしながら、現状ではまだ複式学級にはなっておりませんので、現状を見ながら今後徐々に説明を行っていく必要があるかとは思っておりますが、現段階での計画（案）の中には入れておりません。環小学校につきましては、先ほど申し上げましたとおり、もう少し地域説明や子供たちの心理状況も含めて説明をして進めていくべきものだというように考え、あえて今回の計画（案）には入れず、注意事項ということで3点を記載しており、そのような形で進めていきたいと思っております。2点目の個別再配置計画の策定のスケジュールにつきましては、鈴木室長よりご説明させていただきます。

鈴木室長

はい。個別計画検討協議会という組織をつくり、今後2年半を掛けて決定

<p>岡根教育長</p>	<p>してまいります。その中で急を要するものから順に協議を進めてくこととし、また、その都度保護者の方へ報告を行う予定でございます。</p> <p>補足させていただきますと、急を要するものというのは、例えば、制服の統一についてでございますが、来年からやるのかという質問等が保護者の方から出てきております。そちらにつきましては、やはり協議会の中で保護者の方の意見等を聞きながら最終的に決定していくべきだと考えております。ユニフォームは似ているものの多少違いがあって、そちらを変えていくのか、全く新しいものにするのかというのはまた違った論議になるのでしょうか、急いである程度の見通しを作っておけば、今年の12月までに決定せず新しい年度に入って1年生からということになった場合でも少し時間の余裕が生まれると思います。その他にも学校名や校歌等もございますので、そのような検討を速やかに行わなければいけないものを今後どのようにするのかについては、協議会を通して様々なご意見をいただきながら決定していくという取組が今後のスケジュールとなっております。具体的なものについては概ねできておりますので、この決定がされましたら、速やかに各学校へ提示をしながら協議会の委員を選出していただいて、進めていきたいというように考えております。</p>
<p>高橋市長</p>	<p>ありがとうございました。改めて、委員の皆様から何かございますでしょうか。はい。坂部委員。</p>
<p>坂部委員</p>	<p>はい。先ほど岡根教育長からお話いただき、金谷小学校については保護者の理解が得られれば進めるということでしたが、今後においても概ねの保護者の方の理解が得られず小規模学校が良いという意見が多かった場合には、金谷小学校は統合せずに学校を残し、計画を進めていくのでしょうか。</p>
<p>岡根教育長</p>	<p>はい。基本的には、関豊小学校と環小学校が統合したときのように、子供たちの反応には、多くの仲間たちと集える意義が必ず出てきます。やはり子供たち自身が仲間と経験することによって、様々なことを学ぶというところでございます。ただ、金谷小学校の保護者の皆様は『統合せずに“交</p>

<p>坂部委員</p>	<p>流”でいいのではないか。』という意見もございまして、学校を取ってしまわないでほしいという意見が強いのだと思います。しかしながら、私たちは、教育環境として1日8時間近く同じ同級生で泣いたり笑ったりすることの体験の意義は大きいので、説明をしながら理解を深めていきたいというのが教育長としての私の考えでございます。ですので、今後も説明をしながら、様々な体験を通して子供たちが多くの仲間たちと集える楽しさ等を感じられるよう、進めてまいりたいと考えております。</p> <p>先日、市ホームページにて、地区説明会・懇談会の内容を拝見いたしました。私もまだじっくりとは読んでいないのですが、金谷地区では、市民の方から『この町のために一生懸命に頑張ってきて、若い人たちも増え不動産業が安定してきている中で、学校がなくなってしまうのは寂しい。』というような意見もあるようです。保護者の方々の中にも今回の計画（案）について理解ができる方とそうでない方といるような現状の中で、今後、教育委員としては、小規模学校として金谷小学校は残しましょうといったような形を取る場合もあるのでしょうか。子供が交流を深めていく中で、たくさんの仲間がいる中での勉強や生活が良いということであればよいのですが、今のところ保護者の方からは多くの反対意見があるようなので、この先進んでいくのだろうかという不安を持っております。子供たちの交流を重ねながら、平成32年に向けて進めていければ一番良いとは思いますが、それ以降であっても、概ねの方の意見が『再配置をしてほしい。』ということにできれば再配置を行うという考え方でよろしいのでしょうか。</p>
<p>岡根教育長</p>	<p>はい。市長との意見交換を行った中で、やはり保護者の方のご意見は大きいだろうということで、概ねの保護者の方が反対しているのであれば無理矢理はできないだろうと、私もそのように考えております。ですが、私たちがしっかりと説明を行い、再配置による環境で子供たちが育っていくことの良さ、大切さについて今後もお話していこうと思っております。また、金谷小学校は市内で1番小さい学校であり、恐らく他の天神山小学校や竹岡小学校については湊小学校に近いという部分も多少あるのではないかと思います。小規模校がいいからという意見よりは『今の時代はこうだね。』という形で、多くの仲間達と集えることに対しての気持ちは皆</p>

	<p>さんの中にあるようでございました。また、3人しかいないような極めて少ない学級で先生が授業を行っているとお互いの意見交換でも限られてしまうというところもございます。もちろん先生方が工夫してくださって色々な意見を引き出しながらやっていただいているとは思いますが、そのようなことを考えると、もう少し広い世界というか集えるような環境をつくっていくことに理解を得たいと考えております。そのために、通学手段・安全性等の部分も担保して、しっかりと子供たちをお預かりし、また、しっかりとお帰しできるような通学の仕方を提示しながら理解を深めていきたいと思っております。もうひとつは、半数ほどの『再配置を進めてください。』という意見をお持ちの方もいるわけですので、私どもとすれば、進めていくこととするについては何度も説明を重ね、概ね理解が得られましたら進めていきたいというように考えております。</p>
<p>坂部委員</p>	<p>はい。ありがとうございました。</p>
<p>高橋市長</p>	<p>他の委員の皆様、他にご質問・ご意見等はございますか。他に無いようですので、これをもちまして議事を終了いたします。なお、本会議により、市長と教育委員会は、より適正規模に近い教育環境の中で、児童・生徒がさらにたくましく健やかに成長できるよう『富津市小・中学校再配置』を連携して進めていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。では、進行を事務局にお返しいたします。ご協力ありがとうございました。</p>
<p>事務局 (能城部長)</p>	<p>市長におかれましては、議長ありがとうございました。委員の皆様、その他に何かございますか。無いようですので、事務局から連絡事項等は何かございますか。</p>
<p>鶴岡課長</p>	<p>特にございません。</p>
<p>事務局 (能城部長)</p>	<p>無いようですので、これをもちまして、平成29年度第1回富津市総合教育会議を終了いたします。本日は、ありがとうございました。</p>

富津市小・中学校再配置計画（最終案）

【基本方針】



平成 29 年 月

富津市教育委員会

富津市小・中学校再配置計画

はじめに

I 計画の背景

1 経緯と趣旨

II 市内小・中学校の再配置について

1 小・中学校の望ましい学級数について

2 再配置による利点及び小規模校の利点と課題について

3 学校再配置の基本となる考え方

4 富津市小・中学校再配置計画（概要）について

III 再配置にあたっての課題と対策

1 児童生徒に関すること

2 学校運営に関すること

3 広報について

4 跡地利用について

5 個別の再配置計画の策定について



はじめに

富津市教育委員会では、極めて人数の少ない学級が出てきていることから、子どもたちのよりよい未来のため、一定規模を有する教育環境への改善を図り、多くの仲間と意見交換したり、切磋琢磨できる機会を増やすとともに、幅広い人間関係の学べる場を提供することで児童生徒の心身をよりたくましく育てていきたいと考えました。

そこで、小学校では「複式学級の解消」、中学校では「学年1学級の解消」を富津市の適正規模の目安と定め、平成28年11月新たに「富津市小・中学校再配置計画(案)」を策定しました。

その後、アンケートによる保護者の意識調査、PTA役員・保護者・地区住民への説明会・懇談会を繰り返し行い、また、その中で出された質問・意見に対する「Q&A」を発行するなど、理解の促進に努めてきました。

今回、アンケートの結果をはじめ、これまでの説明会等での意見等を総合的に判断した結果、多くの学校・地域で本計画(案)への理解が深まったと判断し、「富津市小・中学校再配置計画」を進めていくこととしました。

今後とも、よりよい学校づくりのために、皆様のご指導、ご協力をお願いいたします。

I 計画の背景

1 経緯と趣旨

本市の人口は、1985年(昭和60年)の56,777人をピークとして減少に転じており、近年では、その減少幅が拡大傾向にあり、2005年に50,162人の人口でしたが、2010年には48,073人、2015年には45,616人に減少しています。また、出生数も2005年276人、2010年229人、2015年218人、2016年198人と減少しています。

富津市教育委員会では、平成16年度に「富津市小中学校統廃合検討委員会」、18年度に「富津市小中学校統廃合等検討庁内会議」、19年度に一般市民を含む「富津市小中学校統廃合等検討懇談会」を設置し、平成20年8月に「富津市小中学校統廃合等に関する提言書」をまとめました。この提言書は、学校の統合は「子どもたちに、より充実した教育環境を提供するという基本姿勢で検討しなければならない」とする基本的な考え方を踏まえた上で、適正規模・適正配置を含めた学校教育全体について計画の策定と公表を市に求めるものでした。教育委員会では、この提言書の趣旨を尊重し、平成21年2月『富津市小・中学校再配置構想』(以下「再配置構想」)を策定し、これまでに再配置構想に基づいて関豊小学校と環小学校の統合を行いました。

学校の配置については、多面的な要素があり、難しい問題ですが、その判断は常に「児童生徒の教育条件の改善」を中心にすべき問題であると考えます。

現在、富津市の小規模校では、個の実態に応じたきめ細かな指導や、一人一人が主役として活躍できる機会の設定など、少人数の良さをいかした工夫をしています。

一方で、統合した小学校の児童からは、「色々な人と勉強ができて楽しい」「自分やみんなの意見を聞きあえるようになった」「体育は人数が多いので、競技もできるようになった」など、人数が増えたことによる学習環境の変化を喜んでる声も聞かれました。

また、保護者からも「人数が多くなったことで、子供たちは活気のあるものになった」「自分の得意分野で、それを上回る能力の友人ができたことで、それをもっと伸ばしたいという意欲が出た」などの声が聞かれました。

富津市教育委員会では、地域の実情にも考慮しながら、より適正規模に近い教育環境の中で、児童生徒がさらにたくましく、健やかに成長できるよう地域とともに支援してまいります。

Ⅱ 市内小・中学校の再配置について

1 小・中学校の望ましい学級数について

本市において、適正規模として考える学級数

	望ましい学級数	必要と考える学級数
小学校	1 学年 2 学級以上 (12 学級以上)	1 学年 1 学級以上 (6 学級以上)
中学校	1 学年 3 学級以上 (9 学級以上)	1 学年 2 学級以上 (6 学級以上)

※ 上記の学級数の根拠

ア 法令上の小中学校の学級数については、「12 学級以上 18 学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特別の事情のある時は、この限りではない」（学校教育法施行規則第 41 条、第 79 条）とされています。しかし、平成 27 年に「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」が出され、手引きの中の「望ましい学級数の考え方」では、小学校で複式学級が存在する規模の場合「一般に教育上の課題が極めて大きいため、学校統合により適正規模に近づけることの適否を速やかに検討する必要がある」とされています。また、中学校においては、3 学級規模の場合「一般に教育上の課題はあるが、生徒数が少ない場合は特に課題が大きい」とされています。

イ 本市は、市北部に人口（児童生徒数）が集中している現状があります。

下の表のように、富津市全体の約 70% と広大な面積である天羽地区に、5 小学校 2 中学校があり、全市の約 19% の児童、約 20% の生徒が通っています。また、市の面積の約 16% にあたる中央部の大佐和地区では約 23% の児童、約 27% の生徒が通っています。これらの地区には、公共交通機関も未整備のところが多く、「地域の実態その他により特別の事情（学教法施行規則）」として考慮する必要があります。

ウ 今後さらに児童生徒数が減少していった際には、学区の広さや交通事情等地域の事情も考慮して検討を進めて参ります。

地 区	児 童 数	小学校数	生 徒 数	中学校数	面積の占める割合
市 内	1,763	11	953	5	205.53 km ²
富 津 地 区	941	3	527	1	約 13%
大 佐 和 地 区	409	3	238	2	約 16%
天 羽 地 区	323	5	188	2	約 71%

※児童生徒数・学校数はH29.5.1現在

2 再配置による利点及び小規模校の利点と課題について

(1) 小規模校のまま存続した場合の利点として考えられるもの

- ・一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かい指導が行いやすい。
- ・意見や感想を発表できる機会が多くなる。
- ・様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる。
- ・複式学級においては、教師が複数の学年を行き来する間、児童生徒が相互に学び合う活動を充実させることができる。
- ・運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える。
- ・異年齢の学習活動を組みやすい。体験的な学習や校外学習を機能的に行うことができる。
- ・地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい。
- ・児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる。

(2) 再配置により学校規模を大きくした場合の利点として考えられるもの

ア 過去の事例から、児童生徒への直接的な効果について

- ・良い意味での競い合いが生まれ、向上心が高まった。
- ・教師に対する依存心が減った。
- ・社会性やコミュニケーション能力が高まった。
- ・切磋琢磨する環境の中で、学力や学習意欲が高まった。
- ・友人が増えた。男女比の偏りが少なくなった。
- ・多様な意見に触れる機会が増えた。
- ・集団遊びが成立するようになった。休憩時間や放課後の外遊びが増えた。
- ・多様な進路が意識されるようになった。

イ 過去の事例から、指導に関すること、環境整備等への効果について

- ・複式学級が解消された。
- ・クラス替えが可能になった。
- ・より多くの教職員が多面的な視点で指導できるようになった。
- ・校内研修が活性化し、教職員間で協力して指導にあたる意識や互いの良さをとり入れる意識が高まった。
- ・グループ学習や班活動が活性化し、授業で多様な意見を引き出せるようになった。
- ・音楽、体育等における集団で行う教育活動、運動会、部活動などが充実した。
- ・少人数指導や習熟度別指導などの多様な指導形態が可能になった。
- ・一定の児童生徒数の確保により、特別支援学級が開設できた。

- ・バランスのとれた教員配置が可能になり、中学校教員の免許外指導が解消または減少した。
- ・施設・設備が改善され教育活動が展開しやすくなった。
- ・校務の効率化が進んだ。教育予算の効果的活用が進んだ。
- ・保護者同士の交流関係が広がった。PTA活動が活性化した。

(3) 学級数が少ないことによる課題

- ・クラス同士の切磋琢磨する教育活動ができない。
- ・習熟度別指導などのクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい。
- ・クラブ活動や部活動の種類が限定される。
- ・男女比の偏りが生じやすい。
- ・学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる。
- ・体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる。
- ・班活動やグループ分けに制約が生じる。
- ・共同的な学習で取り上げる課題に制約が生じる。
- ・一人の子どもの考えや行動に、クラス全体が大きく影響を受ける。
- ・多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる。
- ・教員と児童生徒の心理的な距離が近くなりすぎる。

(4) 複式学級の課題

- ・教員に特別な指導技術が求められる。
- ・複数学年分や複数教科分の教材研究、指導準備を行うこととなるため、教員の負担が大きい。
- ・実験・観察など長時間の直接指導が必要となる活動に制約が生じる。
- ・兄弟姉妹が同じ学級になり、指導上の制約を生じる可能性がある。

これら、小規模校のメリット・デメリットの両面を総合的に勘案しながら、子どもたちにとって適切な学校環境を提供していくことが求められています。



子どもたちによりよい教育環境を提供していくことを第一に考え、学校の再配置に取り組んでいく必要があります。

3 学校再配置の基本となる考え方

- (1) 児童生徒に、集団生活での過ごし方を学んだり、多くの考えに触れたりする機会を設けられるよりよい教育環境の提供に努めます。
- (2) 児童生徒及び保護者の精神的・肉体的負担をできる限り軽減できるように努めます。

4 富津市小・中学校再配置計画(概要)について

児童生徒数の減少等を考え、小学校では「複式学級の解消」、中学校では「学年1学級の解消」を目安としています。

再配置の時期	内 容	備 考
H32 年 4 月	・天羽地区3小学校（湊小・天神山小・竹岡小）の再配置	湊小学校校舎を使用
	・天羽中学校と天羽東中学校の再配置	天羽中学校校舎を使用
	・大貫中学校と佐貫中学校の再配置	大貫中学校校舎を使用

※金谷小学校について

- ・アンケート調査や説明会での意見聴取等の結果から、学校再配置に係る保護者の理解を十分に得ることができていないとの判断から、今後も継続して保護者の理解が得られるように努めていきます。

※環小学校について

- ・当初の再配置計画（案）には、盛り込んでいませんでしたが、保護者から天羽地区の小学校の再配置計画に加えてほしい旨の要望が多数ありました。今後、改めて懇談会を開催し、保護者・地区の意見を聴取するとともに、教育委員会で協議・検討を行っていきます。

※今後の学校再配置について

- ・佐貫小学校では平成33年に2つの学年が、平成35年には4つの学年が複式学級開設の可能性があり、今後、学校の再配置について検討していく必要があります。
- ・天羽中学校は、平成41年には1学年1学級の学校となる可能性がありますが、学区の広さや通学条件等を考慮すると、現時点では、天羽地区に中学校1校を配置することが必要と考えています。

Ⅲ 再配置にあたっての課題と対策

1 児童生徒に関すること

- (1) 児童生徒の不安解消について
各学校に派遣されているスクールカウンセラーを活用します。
- (2) 学校指定品について
内容に応じて学校間で協議し、調整を行います。
- (3) 児童生徒の交通手段の確保について
登下校が長距離になる児童生徒のため、スクールバスを運行し、以下の点に配慮していきます。
 - (ア) 児童生徒の安全確保に努めます。
 - (イ) 教育活動に支障がでないようにします。
 - (ウ) 保護者の負担増にならないようにします。
- (4) 通学路の点検・整備について
学区の変更に伴う新しい通学路について、改めて点検を行うとともに、危険箇所の解消に努めます。
- (5) 中学校の部活動について
部活動の新たな編成について学校間で協議をすすめ、できる限り速やかに保護者へ伝えていきます。
- (6) 特別支援学級について
これまでと同様、一人一人の個性を大切にしながら、合理的配慮に基づいた教育を行っていきます。

2 学校運営に関わること

- (1) 授業進度の統一について
当該校同士が連携して教育課程を編成し、詳細な年間計画を作成し、再配置後の授業に支障のないようにします。
- (2) 交流授業の実施について
再配置以前から交流授業を計画的に実施していくことで、授業形態等のスムーズな移行や友人関係の構築に努めます。
- (3) 合同行事について
校外学習や修学旅行をはじめとする行事の合同実施を進めます。
- (4) 教育活動について
行事内容、特色ある教育活動についての調整を行います。
- (5) 職員の人事異動について
再配置後の児童生徒理解がスムーズに進むように、前任校の教職員の配置には配慮していきます。
- (6) 各学校の備品について
新しい学校での活用を優先し、有効活用を図ります。

- (7) P T A組織等の整備について
新しい組織について、関係者で協議していきます。

3 広報について

- ① 市民には、市ホームページや「広報ふつつ」への掲載、回覧による文書の配布等により、適切に対応していきます。
- ② 学校の保護者には、再配置計画、再配置個別計画に関する情報について、学校を通じて通知して参ります。

4 跡地利用について

地域の声に耳を傾けるとともに、地域の特色や立地の条件を踏まえつつ、地域の振興につながる有効利用に向け、検討を進めていきます。

5 個別の再配置計画の策定について

- (1) 学校教育の直接の受益者である保護者、将来の受益者である就学前の子どもの保護者を含めた地元住民に対して、十分な説明を行うために、教育委員会はそれぞれの個別のケースについて「個別再配置計画」を策定し、説明を行います。
- (2) 「個別再配置計画」には、再配置後の学校の姿(所在地, 校名, 校章, 校歌等)、再配置に関する課題と対応策、再配置へのスケジュール等を明示します。
- (3) 「個別再配置計画」では、個別の案件に応じて、学校職員のほか、保護者、地域代表者等による検討協議会を設け、協議を行っていきます。